幼少期からのアレルギーと成人アトピーの経過（36 歳女性）

症例 ID：001-30-AK2b ｜ 記録日：2017 年 9 月 16 日

1. 診断・治療前経過

患者さんは、生まれた時からアレルギー症状があり、夜中に喘息が出て嘔吐したり、犬に触れると全身にじんましんが出たりすることがありました。皮膚は冬場に耳の付け根が切れてリンパ液がジュクジュク出ることがあり、膝は白く粉をふき、腕の関節は赤く腫れてかゆい状態でした。ステロイド、ステロイド吸入、ステロイド内服、鼻スプレー、フルコートなど複数の薬を使用していました。高校から大学時代にアトピーが最も強くなり、首にタオルを巻いて授業に出ることもありました。大学時代途中に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期からステロイド外用、ステロイド吸入、ステロイド内服、鼻スプレーなどを使用していました。高校〜大学時代にはステロイド、内服薬、抗ヒスタミン薬なども使用しました。
製品名	フルコート、アンテベート、プロトピック軟膏、ポララミンなど。吸入ステロイド名は不明です。
強度	アンテベートの使用歴があります。その他の強度は不明です。
使用期間	幼少期から大学時代まで長期にわたる使用歴があります。
中止時期	松本医院受診後、ステロイドを使用しない治療方針へ移行しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳幼児期〜小学校	来院前	喘息、じんましん、耳切れ、膝の乾燥、腕関節の赤みとかゆみ、目ヤニ、鼻水がありました。
小学校〜中学校	来院前	悪化したらステロイドを塗り、やめるとリバウンドすることを繰り返しました。
高校〜大学時代	来院前ピーク	首にタオルを巻いて授業に出るほどアトピーが強く、化粧も難しい状態でした。成人式前には化粧のためにステロイドを多用しました。
大学時代途中	治療開始	松本医院を受診し、喘息とアトピーの治療を始めました。
治療開始直後	リバウンド	皮膚がはがれ、リンパ液が出る状態が 1 週間ほど続きました。その後、落ち着きました。
その後	経過後半	漢方風呂で肌が落ち着き、体が温まりました。アトピーが良くなり、化粧もできるようになりました。
現在	経過時点	疲労、ストレス、花粉、季節の変わり目に症状が出ることはありますが、治療を続けながら自分と向き合っている状態です。

4. ピーク時期

ピークは、高校から大学時代にアトピーが最も強く、首にタオルを巻いて授業に出ていた時期と、松本医院治療開始直後に皮膚剥離とリンパ液が 1 週間ほど続いた時期です。

5. 困りごと

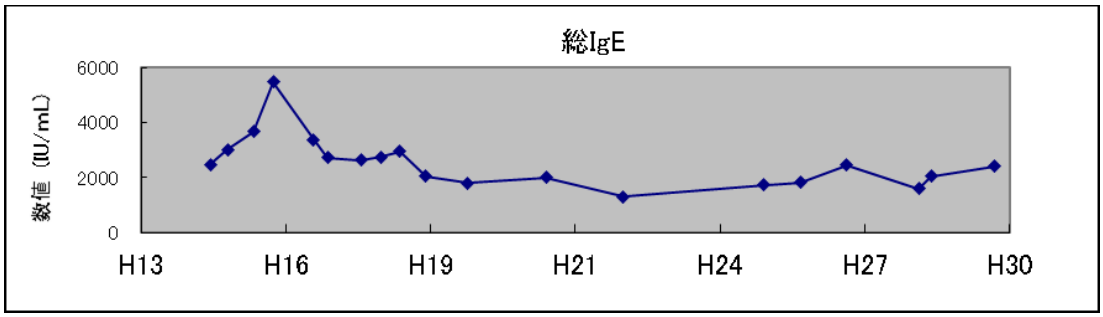
・幼少期から喘息、鼻症状、皮膚症状が重なっていました。

・高校・大学時代には見た目の問題で、化粧や対人面での負担がありました。

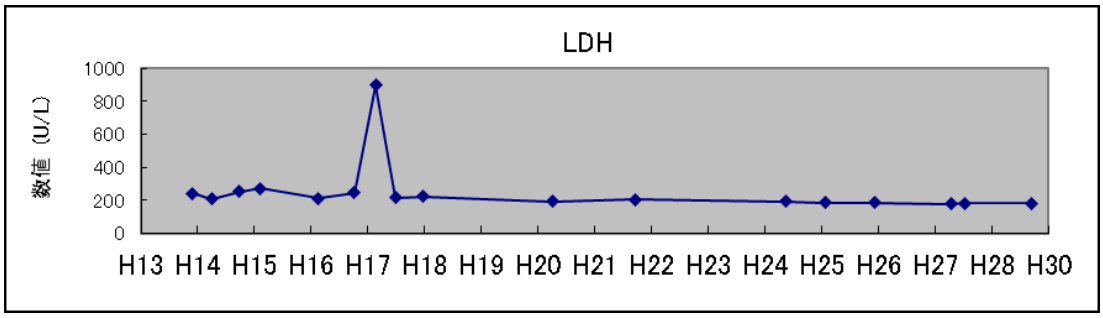
・季節の変わり目や疲労・ストレスで症状が出ることがあり、現在も治療継続中です。

6. 検査値・写真・画像

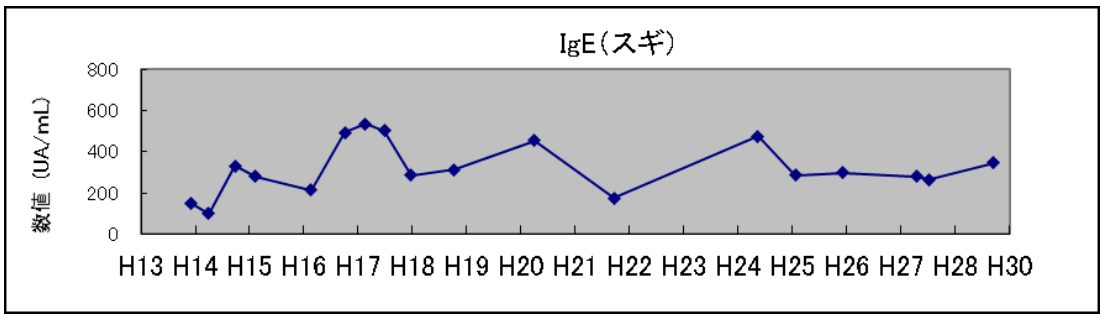
※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



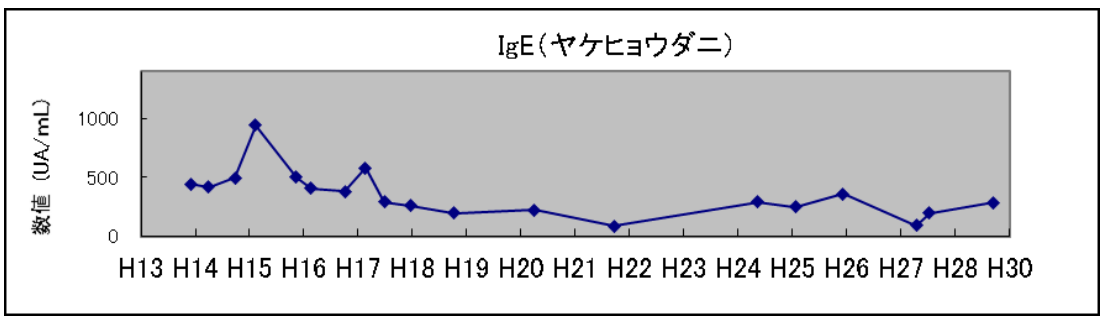
検査資料 1：検査値推移グラフ。



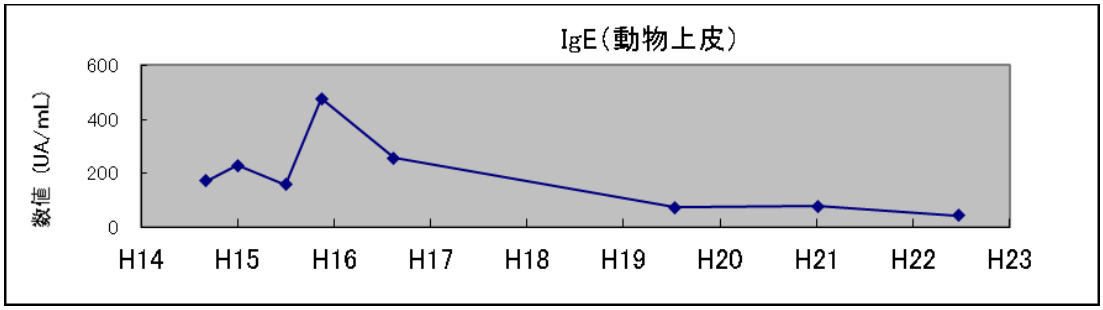
検査資料 2：LDH の推移。



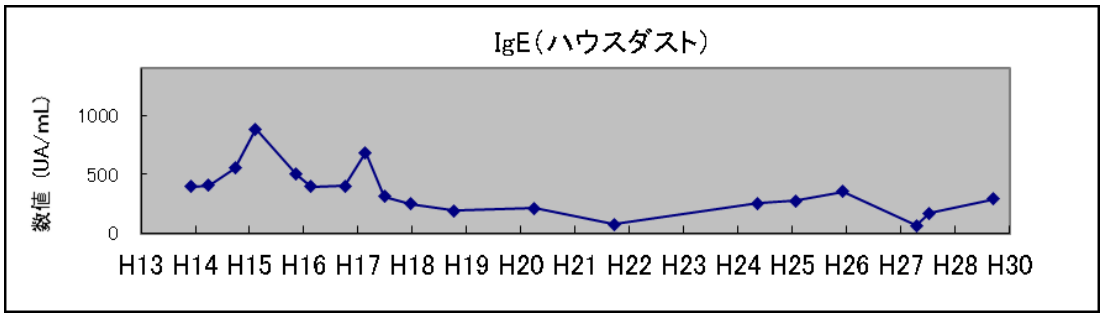
検査資料 3：IgE の推移。



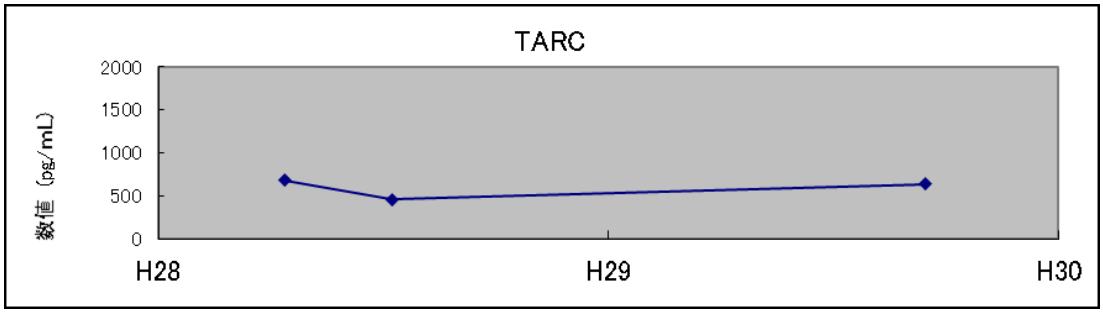
検査資料 4：IgE の推移。



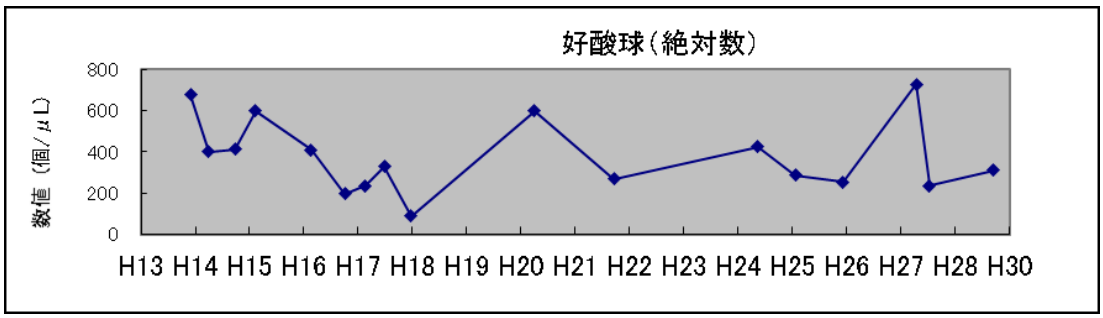
検査資料 5：IgE の推移。



検査資料 6：IgE の推移。



検査資料 7：TARC の推移。



検査資料 8：好酸球の推移。

7. 経過のまとめ

松本医院の治療開始直後には皮膚の剥離やリンパ液が 1 週間ほど続きましたが、その後は落ち着き、化粧もできる状態になりました。現在も疲労、ストレス、花粉、季節の変わり目に症状が出ることはありますが、生活上の支障が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。